

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
小学校	和歌山大学教育学部附属小学校	船越 勝
学校所在地		
〒 640 - 8137		
tel 073(422)6105	fax 073(436)6470	e-mail
担当者名		役職名・担当教科
矢出 大介・梶本 久子		教諭
<p>〔学校の概要〕</p> <p>本校は、和歌山城がある虎伏山の南に位置しています。また、和歌山県立博物館・美術館の隣に位置している。明治8年に創設されている。1年生～6年生まで各学年3クラスで、複式学級もある。「問い続け、学び続ける子どもたち」を研究テーマとして、自ら学ぶ子どもの育成に力を注いでいる。それぞれの先生が専門教科をもち、各クラスが特色をもった授業を展開している。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年 5・6年生 45名	職員 1名	教室
実践研究テーマ		
世界遺産を知り、伝えよう		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習のテーマ	紀州材元気プロジェクト	
〔キーワード〕 世界遺産学習 紀州材 故郷愛		
<p>〔単元目標〕</p> <p>① 世界遺産について考えることができる。</p> <p>② 高野山・紀州材について考えることで故郷和歌山を愛する気持ちをもつことができる。</p> <p>③ 調べたことや考えたことをまとめたり、発表したりすることができる。</p>		
〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕		
全体 23時間 （「紀州材元気プロジェクト」 23時間 ）		
〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕		
高野山・・・世界遺産入門 現地学習		

実践校に関する事項			
〔单元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森林体験 ・ 森林体験の学びを話し合い、課題を決める。 ・ 紀州材に関わっている方々の話を聞く。(林業振興課・設計士・林業従事者・林業販売者) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 紀州材や森林への関心を高めるために体験を通して子どもが感じた疑問を大切にす。 ・ 子どもの疑問から追究していく課題を決め、その課題解決のために多くの人と出会い学びを深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 発言 ノート 行動観察
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界遺産高野山について学ぶ。 ・ 高野山での学びを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 紀州材が建築資材だけでなく、観光や癒しとしても大切であることを実感するために高野山を歩きながら世界遺産マスターへの質問を積極的にしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 発言 ノート 行動観察
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの学びを映像作品にまとめていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちの学びを想起できるように話し合いを大切にしながら映像作品を作っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 発言 ノート 行動観察
〔单元学習の成果と課題〕			
<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 紀州材を入り口として、森林体験・世界遺産高野山の学習、そして映像作品にまとめていくことで郷土愛を高めることができた。 ・ 完成した映像作品がふるさとわかやま学習大賞映像部門において奨励賞をもらい、自分たちの努力が報われる成功体験をすることができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 紀州材を入り口としたことで、学びが広がりすぎてしまった。そのため、映像作品にまとめることが困難になった。郷土愛を高める目標を達成するためには、世界遺産高野山に絞って映像作品をするべきだった。 			
〔世界遺産学習の効果〕			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際に世界遺産高野山を歩きながら世界遺産マスターに質問できることで、その存在価値の高さを実感できる。 ・ また、現地で外国人観光客の多さを知ることによっても存在価値の高さを知ることができる。 ・ 自分たちの生まれ育った和歌山県に世界遺産があることを誇りにもつことによって郷土愛を高めることができる。 			
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界遺産高野山を入り口として、自分たちの学びを映像作品にまとめていくことで郷土愛を高めていく。高野山だけでなく、高野山が入り口となり、自分の身の回りにある様々なものを大切に未来に受けついでいきたいと考える子どもを育成するような単元を考えていきたい。 			

様式 2



清水での森林体験をし、紀州材や森林、林業について知る。

森林体験から感じたことを中心にして紀州材に関する課題を追究した。

自分たちでは解決できない課題に関しては紀州材に関わる地域の魅力ある大人と出会いながら学んでいった。

紀州材は建築資材や森林を守っている以外にも、世界遺産の高野山のように観光客を呼ぶことができる魅力があることを知る。観光としての魅力をもつ高野山に行き、その現状や課題を追究することになった。

午前中は、講義室で世界遺産とはどのようなものかについてことを中心に学びました。

その後、昼食をとり、一の橋をスタートして弘法大師御廟までを歩いた。自分たちの学びを発信するための映像を撮影しながらゴールを目指した。世界遺産マスターが高野山に関する話だけでなく、撮影すべきポイントを教えてくれた。子どもたちは、世界遺産マスターの話に耳を傾けていた。

高野山で学んだことを話し合うことで自分たちの学びを共有した。

これまでの学びの映像作品にまとめる活動を行った。

子どもの感想

紀州材に関わる人たちと出会ったり、森林体験をしたりして、紀州材には多くの人たちの願いが込められていることを知りました。しかし、それでもなかなか紀州材に関わる人が減っていることを知りました。高野山に行き、世界遺産マスターの方と参詣道を歩いてたくさんを知ることができました。世界遺産高野山の参詣道には樹齢300年を超える紀州材が育っていて、人々に高野山の歴史を感じさせたり、心を癒したりしていました。しかし、その木々を管理する職人さんも減ってきていることで、この参詣道の安全を守ることができないかもしれないと思って心配になりました。実際に歩いてみて、改めて高野山や紀州材の魅力を感じることができました。いろんなことを学んだことを映像にまとめました。まとめるのはとても大変だったけど、自分たちが学んだことを多くの人に知ってもらえたらうれしいです。自分たちが学んだことを発信することで紀州材や紀州材に関わる人たちが元気になってほしいです。

